

学校教育目標						
お互いを大切にし、主体的に学習する心豊かな子どもを育てる						
自ら考え、行動できる子	よく考える子	意欲的に学ぶ子	あいさつをする子	思いやりのある優しい子	健康でたくましい子	

目指す学校像（ビジョン）						
（学校像） 笑顔いっぱい！あいさついっぱい明日も行きたいと思える学校		学習が分かる楽しい学校		地域や保護者と連携を密にし、魅力ある信頼される学校		
（教師像） 教育公務員として使命感を持ち、常に研鑽に励み教育活動を推進していく教職員		子どもに対する教育的愛情を持つ教職員		児童・保護者・地域の願いを共有できる教職員		

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				
				努力指標（教師側の指導・手だて）		成果指標（児童の変容・成果の評価基準）		
学力の向上	一人一人を大切に した授業改善に 取り組み、 確かな学力を 定着させる。	確かな学力の定着 をはかるため、指 導法の改善を行 う。	書く活動を通 して考えを確 かにし、深め ていくための 指導法の研 究・実践を行 う。	4	温品塾や学年で研修を深め、各教員が年3回以上研究授業を行う。	4	楽しんで書くことに取り組み、考えを深めることができた児童の割合が80%以上	
				3	温品塾や学年で研修を深め、各教員が年2回研究授業を行う。	3	楽しんで書くことに取り組み、考えを深めることができた児童の割合が70～79%以上	
				2	温品塾や学年で研修し、各教員が年2回研究授業を行う。	2	楽しんで書くことに取り組み、考えを深めることができた児童の割合が60～69%以上	
				1	温品塾や各教員が年1回研究授業を行う。	1	楽しんで書くことに取り組み、考えを深めることができた児童の割合が60%未満	
		一人一人を大切に した学習活動に むけ、授業改善 を行う。	教材研究を深 め、一人一人 の考えが生か される授業実 践を行う。	4	個に応じた指導法工夫をした授業が大いに増えた	4	授業が「わかりやすかった」ととらえた児童の割合が80%以上	
				3	個に応じた指導法工夫をした授業が増えた	3	授業が「わかりやすかった」ととらえた児童の割合が70～79%	
	特別に支援を必 要とする児童が 通常学級のほ ぼ全ての学級 に在籍してい る状況であり、 一人一人を大 切にした学習 指導とともに 、相手を思い やる豊かな心 の育成が必要 である。	一人一人を大 切にした学習 指導とともに 、相手を思い やる豊かな心 の育成が必要 である。	2	個に応じた指導法工夫をした授業があまり増えなかった	2	授業が「わかりやすかった」ととらえた児童の割合が60～69%		
			1	個に応じた指導法工夫をした授業が増えなかった	1	授業が「わかりやすかった」ととらえた児童の割合が60%未満		
	豊かな心	一人一人を大切に した道徳教育 に取り組み、 感動や喜びを 共有化できる 豊かな人間性 を大きくむ。	一人一人を大 切にした集団 作りを行う。	自他のよさに 気づき、お互 いを大切に しあえる学級 づくりをする。	4	自他のよさを自覚できる取り組みを年4回以上行う。	4	自分が好きという児童の割合が80%以上
					3	自他のよさを自覚できる取り組みを年3回行う。	3	自分が好きという児童の割合が70～79%
					2	自他のよさを自覚できる取り組みを年2回行う。	2	自分が好きという児童の割合が60～69%
					1	自他のよさを自覚できる取り組みを年1回行う。	1	自分が好きという児童の割合が60%未満
豊かな人間性を 育むための、 道徳教育の 実践を行う。		豊かな人間性を 育むための、 道徳教育の 実践を行う。	人とのよりよ い関わりをめ ざした体験的 活動を効果的 に取り入れ る。	4	効果的な体験活動が大いにできた。	4	一人一人が大切にされていると感じる児童の割合が80%以上	
				3	効果的な体験活動ができた。	3	一人一人が大切にされていると感じる児童の割合が70～79%	
				2	効果的な体験活動があまりできなかった。	2	一人一人が大切にされていると感じる児童の割合が60～69%	
				1	効果的な体験活動ができなかった。	1	一人一人が大切にされていると感じる児童の割合が60%未満	
何事にも 最後まで やり遂げ、 たくましく 生きる力を 育む		体力向上のため の計画的な取 組の推進を行 う。	授業時間や休 憩時間を利用 して持久力や 瞬発力を高め る補強運動を 行う。	4	授業や休憩時間に持久力や瞬発力を高める補強運動を大いに取り入れることができた。	4	1年間で持久力や瞬発力が向上した児童の割合が90%以上	
				3	授業や休憩時間に持久力や瞬発力を高める補強運動を取り入れることができた。	3	1年間で持久力や瞬発力が向上した児童の割合が80～89%未満	
				2	授業や休憩時間に持久力や瞬発力を高める補強運動をあまり取り入れることができなかった。	2	1年間で持久力や瞬発力が向上した児童の割合が70～79%	
				1	授業や休憩時間に持久力や瞬発力を高める補強運動を取り入れることができなかった。	1	1年間で持久力や瞬発力が向上した児童の割合が70%未満	
地域や保護者 と連携を密に し、魅力ある 信頼される学 校づくりを めざす	地域や保護者と 連携し、安全・ 安心な生活を送 るための危機 回避能力を 育成する。	危機回避能力 の育成のため に具体的な場 面に即した安 全指導を工夫 する。	4	具体的な場面を想定した安全指導を十分工夫した。	4	防犯ブザーを常に携帯し、二人以上のグループで登下校する児童の割合が90%以上		
			3	具体的な場面を想定した安全指導を工夫した。	3	防犯ブザーを常に携帯し、二人以上のグループで登下校する児童の割合が80～89%		
			2	具体的な場面を想定した安全指導を日常的に行った。	2	防犯ブザーを常に携帯し、二人以上のグループで登下校する児童の割合が70～79%		
			1	具体的な場面を想定した安全指導を行った。	1	防犯ブザーを常に携帯し、二人以上のグループで登下校する児童の割合が70%未満		